

災害発生時に役立つ知識や技能を習得！

中学生レスキュー隊発足式&合同訓練

6日、区立阿佐ヶ谷中学校(阿佐谷南1-17-3)で、将来、地域における防災活動の担い手として活躍が期待される「中学生レスキュー隊」の発足式が行われ、区内各中学校から合計185名の生徒が参加しました。その後、区内2消防署、杉並消防団及び災害時支援ボランティアによる指導の下、合同訓練が行われレスキュー隊となった中学生たちは、熱心に耳を傾け真剣に取り組んでいました。

平成23年の東日本大震災では、多くの尊い命が失われました。日ごろから正しい防災知識を身につけることは、いざというときに自分の命、そして家族や地域の人々の命を守ることに繋がります。杉並区では将来を担う中学生が、正しい防災知識を学ぶとともに防災意識や地域貢献意識の向上を図ることを目的に、平成17年に「中学生レスキュー隊」を発足しました。発足以来、防災の知識や技能を身につけ、地域に貢献したいという意識の高い中学生が、隊員としてAEDや簡易担架の作り方などを学び、区内小中学校で実施される総合震災訓練では大人に交ざって活動してきました。

取り組みを始めて今年で10年目となり、発足式で各学校の代表として決意表明をした東田中学校3年生の井上直輝さんは、「中学生レスキュー隊の一員として、日ごろから学校や地域の中心的な存在となり、災害時に備え少しでも多くの技能を習得することを誓います」と力強く宣誓しました。発足式後の合同訓練では、各学校が6つのグループに分かれて、体育館でAED操作と傷病者搬送訓練、校庭ではD級ポンプ放水訓練が行われました。生徒たちは、自ら進んで友達と協力し、簡易担架を作るなど積極的に防災知識や技能の習得に努めていました。今年、1年生で初めて隊員となった中瀬中学校の男子生徒は、「知らないことがいっぱいだったけど、今回の訓練を活かして、もしものときに人を助けられるようになりたい」と意気込んでいました。



今回は、8月30日(土)に行われる東京都と杉並区による合同の防災訓練で、中学生レスキュー隊が活躍することが期待されています。

【報道機関 問い合わせ先】

教育委員会事務局 学校支援課 TEL:3312-2111

総務部 広報課 TEL:3312-2111